

可睡斎

曹洞宗の禅寺、可睡斎は可睡ゆりの園のちょうど北西にあります。この寺院は 1401 年に建立され、もともとの名称は東陽軒でしたが、江戸時代（1603～1867 年）に日本を統治した徳川幕府の初代将軍、徳川家康（1542～1616 年）とのある出来事のあとで名称が変わりました。

家康は幼少期の大半を軍事同盟を守るために人質として過ごしました。その当時のある時期、東陽軒の第 11 代住職が家康の教育に携わりました。時が流れ、浜松城主となった家康はかつての師を浜松城に招きました。住職は話の最中に突然、居眠りしてしまいました。城主の面前で眠ることは通常禁止されていましたが、家康はこのお年寄りを自らの目の前で居眠りさせておきました。それ以降、住職は「可睡和尚」として、東陽軒は「居眠りすることが許されている寺」という意味の「可睡斎」として知られるようになりました。

可睡斎では安眠をもたらすというお守りを販売しています。観光客が参加できる催しには、瞑想、寺の数々の歴史的な工芸品の見学などがあります。遅くとも 1 週間前に予約すれば僧侶がつくる精進料理を味わえます。5 月下旬には風鈴まつりが開催され、夏の到来を歓迎しようと、境内に何千もの風鈴が飾られます。